

326
117



始



326
117

東北振興會調查報告 乙部第二號

東北地方の農業

東京帝國大學農科大學長
農務省農事試驗場長

農學博士 古在由直氏述

東北振興會調查報告

東北地方の農業

東京帝國大學農科大學長
農務省農事試驗場長

農學博士 古 在 由 直氏 述



私は今日は演説する積りてなく、何か御質問があれば答へる位の積りて参つたので、それで東北の農業といふものが他の地方と餘程違つて居る、違つて居るが故に斯う云ふ風に爲なければならぬと云ふことを、最も簡単に申上げたいと思ふのであります。

御承知の如く東北六縣は百姓の數は約三百六十萬程ありまして、耕地の八十七萬町歩位、それに宅地等を加へて九十萬といふ數でありまして、全體の面積から見ると約一割三分位しか開けて居らないのであります、之に反して中國及四國を

大正
4. 10. 18
内交

平均して一割七分、九州になりますと二割三分位全面積に對しての耕地が有る、東北は非常に少いのであります、何故に少いであらうか、東北の地勢必しも四國中國及九州に比較して特別に山嶽が多い譯ではない、然るに耕地の割合が一割三分位に止つて居るのは如何なる原因であるかと申しますと、是は則ち山林原野が非常に多いのであります、山林は耕地の約四倍、則ち三百六十萬町歩ほどあるのです、ごさいます、原野が亦た随分多いのであります、耕地の半分以上、即ち五十萬町歩以上の原野がある、耕地の半分以上が原野であつて、耕地の約四倍が山林と云ふやうな有様である、そこで人口は割合に少いものでありますから、農家の一戸當りの段別は多いのであります、即ち東北六縣に割りまして平均約一町八段位になります、九州邊では一町少し餘、又畿内中國では僅に一町足らず、即ち七段いくらと云ふやうな有様であります、面積は割合に多いのでありますけれども、併ながら農業の經濟といふものはなか／＼取れ悪いのであります、それは第一に、只今いろ／＼本年の凶作のお話がありました、凶作でなくとも大體に於て氣候が涼しいのであつて、殊に稻といふものは充分に中國或は九州の如き收穫を擧げることが出来ない

況んや往々北太平洋に於て高氣壓が現はれて、北或は北東の風が稻作の最も必要な時期、即ち七月、八月、九月といふやうな時に吹いて來るのであります、其の甚しい場合に於ては本年の如き慘狀を呈するのであります、尙この氣候の關係からして、二毛作が充分に出来ないものであります、田地の方の二毛作は殆ど無いと云つて宜しいのであります、四國なり、中國なり、又九州に在りましては、田地の二毛作といふものが頗る盛に行はれて、七割は皆二毛作を行つて居る、畑の二毛作に於ても東北は餘程少いのであります、關西地方に在りましては、果樹園、茶園、桑畑等は二毛作を致しませぬけれども、其他の畑に在つては必ず一年に二毛作以上の事を行つて居るのであります、東北に於ては頗る微々たるものである、此の如き有様でありますから、一戸當の面積は餘程多いのでありますけれども、其の實收は多くないのであつて、一町の畑はやはり一町にほか使へないのであります、四國なり、中國なり、つまり關西地方に於ては之を二町以上に使ふから、東北は面積だけは大きいけれども、實際利用の面積は餘り大きくはないのであります、故に農家の經濟といふものは餘程困難である。

又同じ面積に就て申して見ますれば、勿論東北は氣候の關係及び土地といふものが一體に悪いのです、火山の灰が大分混つて居る土地がありまして、地力が悪いのみならず排水が悪い、灌溉が悪いと云ふやうに、悪い事だらけて東北の御方には氣の毒であります、何も彼も悪い、随つて人の勉強力も足らない、詰りそれ等種々の原因に依つて收穫といふものが餘程少いのでありまして、先づ大體から申して見ますれば、田の方でも畑の方でも、關西地方が百であれば東北地方は六十位の割合である、さうしますれば關西地方で一町歩と云へば、どうしても此方では一町六段位持つて居らんければ、それだけの生産を致して行く譯には行かないのであります、且此の統計上の調はいろ／＼ありますけれども、統計上の調といふものは餘りあてにならぬので、東北及び關西地方の農村に就て然るべき農村を選んで、其處で種々農業の調査を致して居るのであります、それに依て考へて見ましても、矢張り今の收穫の割合が關西を百とすれば東北は六十といふやうな大體の割合に出るためであり、此等の結果に依りませうか、又其他種々の原因もありませうが、田畑の賣買の價格といふものが餘程違つて居るのでありまして、是も大藏省

の租税局の調てありますけれども、統計表に載つて居るのは、登記所で調べるのでありますから餘りあてにならぬ、登記所では登記料を少くする爲に實際の賣買よりもきつと安く書上げますから、能く分りませぬが、併しそれに依つて見ても、大體關西と東北とは賣買の價は田畑共に半分以下であります、又實地の調査をして、各々數箇村の田畑に就て賣買の價を調べて見ました所が、やはり大體に於て東北の方が關西地方の半分です、田地でも畑でも半分といふやうな有様である、生産力の方は半分ぢやないが、賣買の方は半分であります、勿論土地の價といふものは必しも土地の生産力と正比例するものではありません、種々の原因に依つて土地の賣買の價は違つて來るのでありますから、一概には申せませぬが、つまり東北の方が、土地の賣買の價は生産に比較すると少し廉いのであります、併ながら地價の方が、考へて見ると、是も固より統計表で見て分るのであります、必しも生産の割合即ち東北が六十である、關西が百であると云ふやうな割合には地價は廉くなつて居らない、斯く申しますれば東北の地價——法定の地價であります賣買の地價ではありませぬ——此の地價は、さう云ふ風に生産と正比例して居らぬから、地價が

高いと云ふことか出来るのでありますけれども、併ながら此の地價の高い廉いと云ふことは、勿論少し改良して行けば生産も殖えるのでありますし、殊に東北の方は申す迄もありません。人の力の足りないが爲に、充分に勉強せぬが爲に收穫の少い點もあるのでありますから、それ等の點を考へて見ると、地價と生産とが關西のやうに行かないと申しても、是が必しも地價が高いとは言へないのであります。併し先づさう云ふやうな有様になつて居ります。

尙もう一つ關西と違ひます點は、牛馬耕が少いのであります。東北に於ける牛馬耕といふものは非常に少いのであります。割合で申すと田地の一割七分位より牛馬耕を行つて居らない、九州なり畿内なりに行きますと、どうしても六割以上は牛馬耕をやつて居る、牛馬耕をやります。だから犁をあまり使はない、土地を深く耕すことが出来ない、随つて充分に收穫を擧げることが出来ないといふやうな原因にもなるのであります。其外東北は、申す迄もなく冬寒いからでもありません。が、農家の副業といふものが餘程少いのであります。關西に在りましては農家の収入の二割以上は大抵副業に依つて取るのであります。併し東北に在つては先づ平均一

—是も悪い處は別であります。が、中等の村を選んで收支計算をして見ると一割位のものである。總収入の一割位が所謂副業から取れるといふ位の有様である。是も亦非常に農業に取つて不利益なる點であります。

此の如く種々の點に於て不利益の結果はどうなつて居るかと申しますと、土地の分配、即ち最も簡単に申して見ると土地を有つて居る人が少いのであります。又段々是が少くなるのであります。勿論いづれの地方に参りましても、小地主が段々に減つて来るのは全國の大勢である。獨り全國のみならず世界の大部分であります。世界何れの國に於きましても、又日本の何れの地方に於きましても減るのであります。が、東北には殊に減り方が甚いので、四五年前の調であります。が、村を選んで調べた結果に依ると、田の無い者が百戸に付いて四十位の割合、同じやうな状態に在る關西の方は如何かと云ふと三十位、それだけの違ひがある。畑の方も大約同じこと、東北の方の農家で何も持たない者が四十位ある。これは併ながら全體の平均ではありませぬ。福島縣で何箇村、宮城縣で何箇村と云ふやうに、あまり不同の無い村を數箇村選んでさうして勘定して見たのであります。一般の平均ではあり

ませぬけれども、之に依つて凡そ東北全體の事が分るであらうと思はれます、況や又本年の如き凶作に遭ひましたならば、益々土地を失ふ者が殖えるに違ひないのであります。

八

借金は如何である、百姓の負ふて居る借金は如何であるかと申すと、是亦東北が多いのでありまして、是も平均の數ではありませぬが、まづ一戸平均二百圓位の借金があるやうである、此の二百圓の借金といふものは餘程大きいのであります、何處の地方でも平均すると大分有るのであります、關西地方に在りましてはまづ百圓、百二十圓位の所であらうかと思ふのであります、又金利が高いのであります、金利は近頃東北地方に於ては少し安くなりましたが、併し關西地方に比べるとまづ二分か三分は高いのであります。

以上の如く種々不利益なる状態でありますからして、之を何か人の力に依つて助けに行かなければならぬと云ふことに自然なるのであらうと思ひますが、借之に對して東北の農業に就て如何にしたら宜いかと申しますと、是はいろ／＼の方法があらうと思はれる、例へば極簡單に言へば副業を盛にする、或は又低利の資金

を充分に供給してやる、或は又共同の購入販賣等の事業を盛にする、尙又東北に在つては總て副産物、副業に依つて得らるゝ所の種々の物品販賣の工合が頗る悪いのであります、共同に之を販賣してやると云ふやうな組織が、何れの地方に於ても充分でありませぬが、東北に於て殊に悪いのでありますから、さう云ふ様な事をし、てやる、いろ／＼並べて見ますと、教科書に書くやうに、十も二十もあると思ひますが、併ながら最も私が必要と思ふのは大抵何處の縣、何處の地方でもやらなければならぬ事ばかりであります、東北に於て殊に力を入れてやれば宜いと思ふことは土地の開発であります、此の土地は前にもちよつと申上げました通り、全體に付ての一割三分位の開け方でありまして、殊に林野といふものが残つて居るのであります、此の林野の多くは私有であります、或は又共有であつて入合地になつて居りますから、是はちよつと手の付けにくいものであります、併ながら此外、國有の土地もある、それから御料の原野といふものも多いのであります、此等に向つて充分に調査を致しましたならば、随分開墾し得べき所ものは尠くなからうと思ふのであります、尤も東北は前申しました通りに、土地が一體に悪いのでありますから

九

之を開墾することも多少困難でありますけれども、併ながら國有の林野及び御料の原野に於きまして、相當開墾して宜からうと思ふ處は彼方此方に少しづつ有るのであります、此等の事を充分に御調査になりまして、若しそれが相當に利益のあるものならば其の土地を開墾し、さうして東北の御方に對しては甚だ濟まぬやうてありますが、もつと勤勉なる農家を團體として其地に殖民を行ふ、殖民と云ふとえらい大きいですが、他地方の人民を引入れて來たならば餘程宜しくはないか、自他共に宜しいではないかと云ふやうな考を持つて居るのであります、ごく簡単にちよつと考へ付いた事だけを申し上げます。

大正四年十月十四日印刷
大正四年十月十七日發行

東北振興會

發行者 吉池慶正

東京市牛込區市谷柳町三十五番地

印刷者 島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三秀舎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

326
17

終

(東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀會印行)